



Noetraに関する動向調査と戦略解剖

国産フィジカルAI基盤の実像と競争環境

Executive Briefing // 2026.07.01 Status



中核ミッション

実世界ネイティブな「フィジカルAI」および国産マルチモーダル基盤モデルの開発・提供。



資本・資金基盤

公式出資4社（ソニーG、ソフトバンク、NEC、ホンダ）+ NEDO事業予算3,873億円（2026年度計上）。



研究開発体制

産業技術総合研究所（産総研/AIST）との強力なコンソーシアム。理論・アーキテクチャ・評価枠組みを全面支援。



事業期間

2026年7月1日（事業開始）～
2031年3月。最終目標は2040年口
ボット 1000万台導入の基盤化。



追加候補 (報道ベース)

三菱UFJ銀行, 三井住友銀行,
みずほ銀行, 日本製鉄, 神戸製鋼所

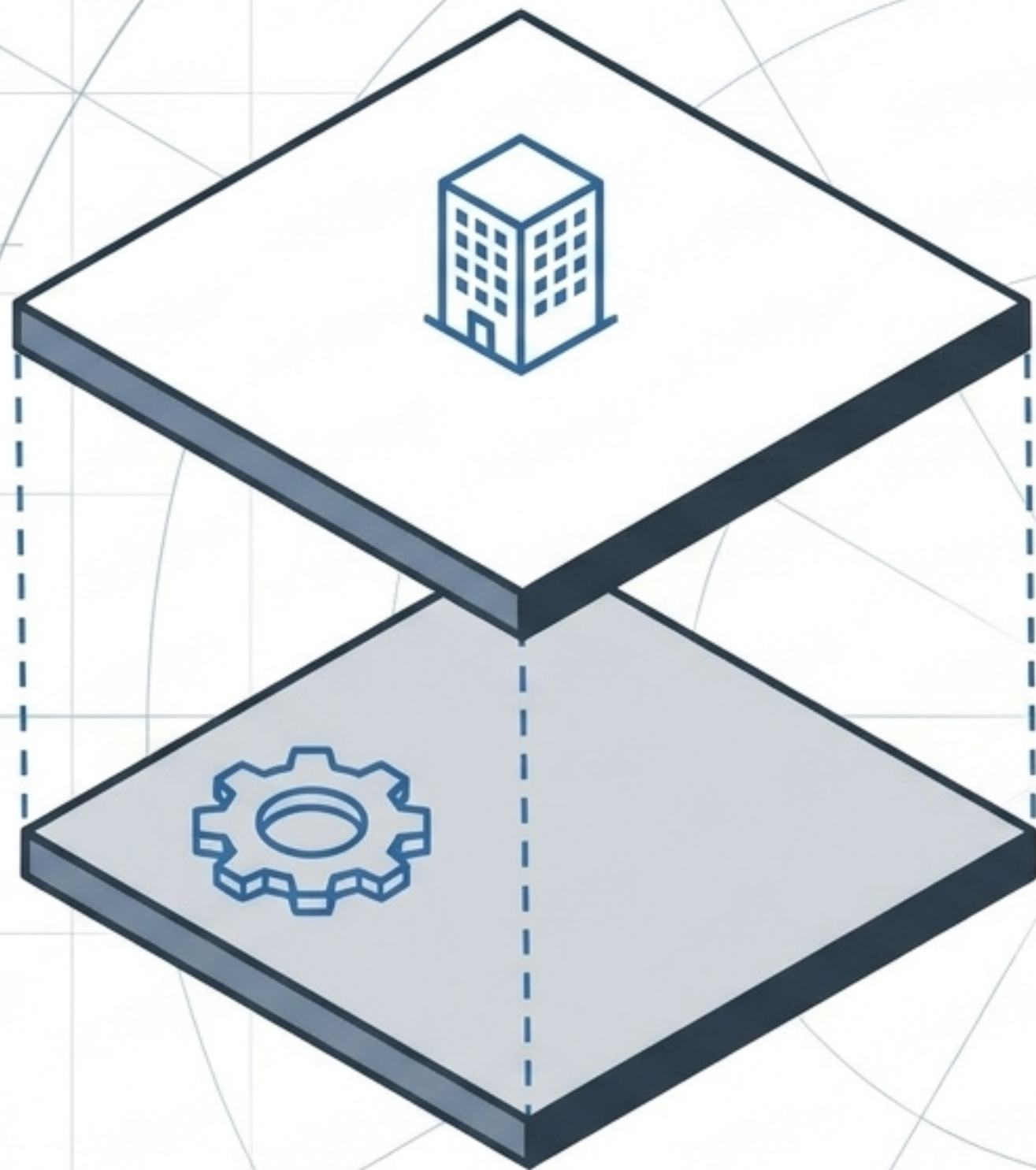
確定陣営 (公式発表)

ソニーグループ, ソフトバンク,
NEC, 本田技研工業

代表取締役社長: 丹波廣寅

未公表のブラックボックス

出資比率、出資金額、出資形態 (普通株/優先株)、完全な役員構成 (取締役・監査役) は現時点で一切非公開。GビズINFO上でも従業員数・資本金は空欄。



事業会社：Noetra株式会社

民間企業からの「エクイティ出資 (自己資本)」。額は未公表。モデルの開発・提供と将来の事業化を担う主体。

研究開発コンソーシアム：Noetra + 産総研

経済産業省/NEDOからの「委託・支援予算」。ここにロイター報道の【2026年度予算：3,873億円】が計上されている。



【重要】 3,873億円はNoetraの「自己資本」ではなく「公的プロジェクト予算」。株主からの調達資金と国費は厳密に切り離して評価する必要がある。

産総研 (AIST)

AIRoAコンペ優勝実績,
マルチモーダルAI品質指針,
複数物体比較AI

ソフトバンク陣営

Sarashina2.2-Vision等の
オープン運用経験
日本語/視覚モデル

NEC

cotomi v3 (政府試用対象の
軽量・高速・セキュアな
企業向けLLM)

Noetra (統合ハブ)

公開特許0件、意匠0件、商標0件
ゼロからの単独開発ではなく、
国産資産の統合ハブ

デジタルAI

- 入力: テキスト、画像、論理
- 能力: 高度な日本語理解、論理推論、指示遂行



マルチモーダル統合

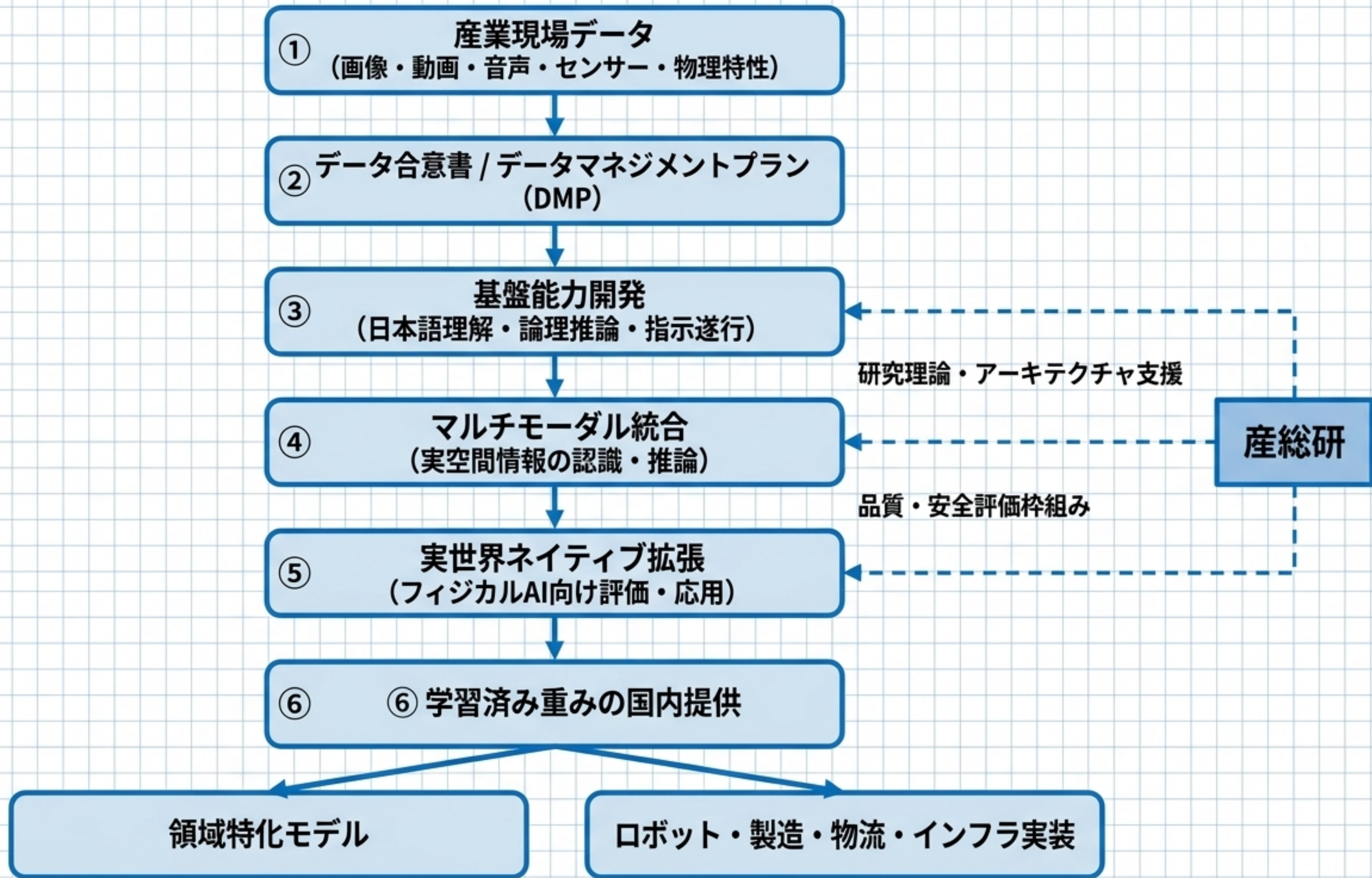
- 入力: 動画、音声、空間データ
- 能力: 実空間情報の認識・推論



フィジカルAI (到達目標)

- 入力: センサーデータ、物理特性、
- 能力: 実世界ネイティブなAI。
実環境での拡張性、
物理的アクチュエーション





Noetra 基盤モデル

理論・アーキテクチャ

AIST-CNRSロボット工学連携研究ラボの知見（言語・画像・音響・三次元点群の統合、模倣学習ベースのロボット制御）。

品質・安全評価

「マルチモーダルAI品質マネジメントガイドライン第1版」の提供と、実世界評価基盤の構築。

グローバルアライアンス

米国、カナダ、フランス、英国など海外トップ研究機関との連携体制（経産相会見より）。

R&D Engine: 産業技術総合研究所 (AIST)

プレイヤー	主戦場	コアモダリティ	展開戦略	差別化の源泉
Noetra	フィジカルAI基盤	日本語/視覚/空間/物理	重み公開・共同開発	データ主権・国内現場データ
PFN (PLaMo-VL)	エッジVLM	画像・言語	公開・モニター提供	自律デバイス向け軽量性
SB Intuitions	国産LLM/Vision	日本語・視覚	クラウド・オープン	通信インフラとの連携
NEC (cotomi)	企業向けLLM	言語中心	オンプレ・クラウド	政府試用実績・軽量高速
Google DeepMind	ロボティクス基盤	視覚・言語・空間・行動	クラウド・デバイス	世界トップの総合性能
NVIDIA (Cosmos)	物理AI世界モデル	映像・物理	オープンライセンス	シミュレーション・合成データ
Physical Intelligence	汎用ロボット制御	視覚・言語・行動	モデル公開 ($\pi 0$)	汎用マニピュレーション

Key Takeaway: 巨大テックとのパラメータ競争ではなく、「データ主権」を盾にした日本の産業エッジデータへの独占的アクセスが最大の武器となる。

重み公開とエコシステム形成

研究成果の学習済み重みを国内事業者へ提供し、プラットフォームとしての裾野を拡大。

B2B 領域特化モデルの共同開発

製造、物流、インフラ、福島第一原発の廃炉現場など、海外汎用モデルが入り込めない「高秘匿・実現場データ」領域での専用モデル構築。

実装インフラ支援

ソブリンクラウドやオンプレミス環境との連携
（「モデル開発で使用するインフラの検討」に基づく実装一体提供）。

高秘匿・
実現場データ
領域での
商用化

Risk Severity (重大性)

Low

Mitigation Clarity (対応の明確さ)

High

物理的安全性・誤作動

産総研品質指針があるが実地適用は困難

エネルギー負荷

大規模学習・推論による電力制約

産業データ・営業秘密漏えい

NEDOルール、DMPで対応

著作権/知財問題

知財運営委員会、文化庁準拠

個人情報の混入

APPI遵守、共同利用契約で対応



短期
(2026-2027)

- 体制構築：知財・データ合意書、DMP整備。
- 基盤能力：日本語理解・論理推論・指示遂行の初期達成。

中期
(2026-2030)

- 統合と公開：画像・音声・空間情報の統合モデル公開。
- 学習済み重みの提供、複数産業でのPoC。
- 2031年3月：現行NEDO事業の終期。

長期
(2040 Target)

- マクロKGI：経産省「AIロボティクス戦略」に基づく、国内ロボット【約1,000万台】の実装基盤化。

政府・政策

NEDO予算(3,873億円)、
AIロボティクス戦略、
データ主権保護

Sovereign
Integration
Hub

アカデミア・技術

産総研(AIST)、AIRoA基盤、
ロボット品質マネジメント

産業エッジデータ

ソニー、ホンダ、NEC等の
製造・インフラ・デバイスの
クローズドデータ

Noetraの真の競争優位は、巨大テックとのパラメータ競争ではなく、海外モデルが法的・安全保障上アクセスできない「日本の現場データ」を独占的に回せる構造的ロックインにある。単なるAI開発企業ではなく、国家規模のデータインフラ構築プロジェクトである。